

小宮会館と小宮ふるさと自然体験学校の再編等の考え方

1 概要

小宮会館を小宮ふるさと自然体験学校に移転し、規模縮小・複合化する方針を定めます。

※ 複合化する位置は、小宮ふるさと自然体験学校における事業規模などを考慮し、「現小宮ふるさと自然体験学校敷地」を想定しています。

※ 乙津郵便局の取扱いとは別途検討します。

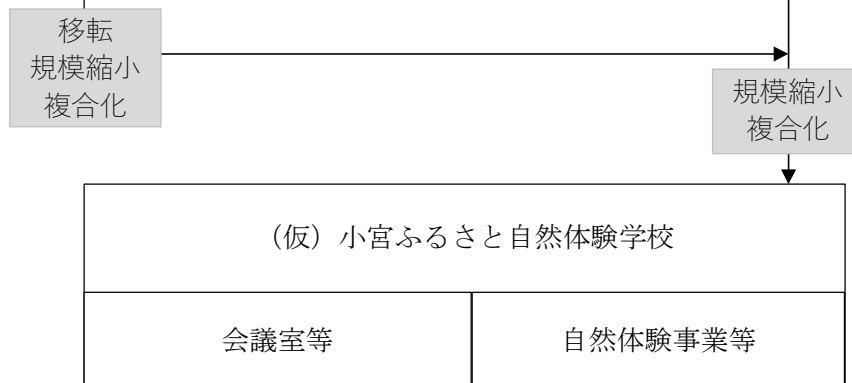
※ 現在の小宮会館の建物については別途検討します。

2 再編等のイメージ

(現状)



(再編後)



※ 複合化する位置は、小宮ふるさと自然体験学校における事業規模などを考慮し、「現小宮ふるさと自然体験学校敷地」を想定しています。

※ 乙津郵便局の取り扱いとは別途検討します。

3 再編等の方向性の内容（施設ごと）

個別施設計画を基に再編等の方向性の選択肢を設定し、「①床面積の縮減の度合い」「②利便性への影響の度合い」「③機能重複の解消の度合い」「④コストの低減の度合い」「⑤避難所、投票所などの重要な機能への影響の度合い」を評価し、採用する再編等の方向性を選定しました。

| 施設名称 | 個別施設計画を踏まえた 再編等の方向性 | | 再編等に関する実施計画（案） | | |
|--------------|---|---|-----------------|-------------|---|
| | 選択肢 1 | 選択肢 2 | 採用した 再編等の方向性 | 同時に行う対 応 | 理由など |
| | | | | | |
| 小宮会館 | 移転・規模縮小・複合化 （近隣の小宮ふるさと自然体験学校の既存建物に小宮会館の機能を移転し、規模縮小して複合化） | 移転・規模縮小・複合化（新建物） （小宮ふるさと自然体験学校と小宮会館の機能を複合化した建物を新たに設置（両施設とも規模縮小）） | 移転・規模縮小・複合化 | — | 「移転・規模縮小・複合化」が「移転・規模縮小・複合化（新建物）」と比較して、「④コストの低減の度合い」の評価が高かったことから、再編等の方向性として採用しました。 ※ 乙津郵便局の取扱いは別途検討します。 ※ 現在の建物については別途検討します。 |
| 小宮ふるさと自然体験学校 | 規模縮小 （使用実態に合わせて維持管理の範囲を縮小する（建物更新前の対策）） | 規模縮小・複合化（新建物） （小宮ふるさと自然体験学校と小宮会館の機能を複合化した建物を新たに設置（両施設とも規模縮小）） | 規模縮小・複合化 | — | 「規模縮小・複合化」が「規模縮小」と比較して、「①床面積の縮減の度合い」「②利便性への影響の度合い」「③機能重複の解消の度合い」の評価が総じて高かったことから、再編等の方向性として採用しました。 ※ 複合化の手法（新建物とするかなど）は別途検討します。 |

■再編等に関する実施計画

令和7年12月

| | | | | | | |
|---------|-------------|---------|------|------|---------|----------|
| 施設棟番号 | B-10 | | 所管部署 | 総務部 | 地域防災課 | 地域安全係 |
| 施設分類 | 大分類 | 市民文化系施設 | 中分類 | 集会施設 | 小分類 | コミュニティ会館 |
| 施設名称 | 小宮会館 | | | | | |
| 所在地 | あきる野市乙津1997 | | | | 敷地面積(㎡) | 479.03 |
| 延床面積(㎡) | 268.19 | | 構造 | RC造 | 建築年度 | 昭和60 |
| | | | | | 経過年度 | 40 |

| | | | | | | |
|------------------|---|--|--|--|--|--|
| 計画期間 | 令和8(2026)年度～令和17(2035)年度 | | | | | |
| ①事業の概要 | <p>設置根拠：あきる野市コミュニティ会館条例</p> <p>設置目的：地域住民の連帯意識を高め、生活文化の向上を図ることを目的とする。</p> <p>対象者：限定しない。</p> <p>サービスの概要：趣味やサークル活動、コミュニティ活動などを行う場として、会議室等を貸し出す。</p> | | | | | |
| ②事業の現状 | <ul style="list-style-type: none">・定期的に利用してる団体は限定的であり、利用件数は少ない。・利用者は、管理人へ電話し仮予約後、紙の申請書において利用申請している。・令和6年3月25日から会館1階の左半分（旧図書館使用部分）を乙津郵便局に貸している。（5年更新）・令和7年7月から敷地内に自動販売機を設置している。（3年契約）・令和2年度と令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う公共施設の利用制限のため、臨時休館または営業時間の短縮などを行った。 | | | | | |
| ③将来的な事業のあり方（方向性） | <ul style="list-style-type: none">・立地から、会館利用者は地域の方が中心である。既に地域住民の高齢化率は高く、今後も更に高齢化が進む中、高齢者にとって利用しやすく、生涯にわたって学びやコミュニティ活動などが行える環境を整えた場所を確保する。・利用申請のデジタル化と電子決済を導入し、利用者の利便性の向上、管理人の貸出業務の負担軽減、職員の納入事務処理の負担軽減を図る。・1階右側空きスペースの民間利用など、施設の有効活用を図る。 | | | | | |
| ④事業の課題 | <ul style="list-style-type: none">・高齢者が利用しやすい施設への改修（エレベーターの設置などバリアフリー化）・会館の管理業務の効率化（デジタル化の推進等）・施設の複合的活用の推進・施設の老朽化・借地部分の解消 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|-----|-------------------|---|---|---|-----------------|----|--|
| ⑤個別施設計画における施設の再編等の方向性（令和3年6月時点） | 再編等の方向性 | 移転・規模縮小・複合化／移転・規模縮小・複合化（新建物） | | | | | | | | |
| | 保全の方向性及び実施時期の目安 | 大規模改修 | 令和6 | 建替え 又は 長寿命化改修 | 令和27 | 長寿命化後の建替え | — | （参考）建替え時 築年数 | 60 | |
| ⑥再編モデル案検討のための施設特性整理 | 利用対象 | 市民一般 | | | 備考 | ・利用者は主に市民であるが、市民以外の利用も可能 | | | | |
| | 需要傾向 | 利用需要上昇傾向 | | | | ・一般利用はほとんどなく、免除団体の利用が多い。コロナ禍のため利用件数が減少したが、その後、回復傾向を示している。 | | | | |
| | 規模適正度 | 余剰スペースあり | | | | ・1階会議室は選挙の時のみ使用 ・1階の旧五日市図書館小宮分室のスペースには、令和6年3月25日に乙津郵便局が開局した。 | | | | |
| | 建物活用 | 多目的利用検討可能 | | | | ○ | ・指定緊急避難場所として登録されている。 ・1階の旧五日市図書館小宮分室の部分を乙津郵便局に貸している。 | | | |
| | | 複合化・集約化によるサービス水準の向上が期待される | | | | ○ | | | | |
| | | 設置目的と異なる使用状況あり | | | | ○ | | | | |
| | | 単独機能での建物利用が望ましい | | | | × | | | | |
| | | 賃貸借物件での運営も可能（市有物件での運営は必須ではない） | | | | ○ | | | | |
| | | 投票所機能 | | | | ○ | | | | |
| | | 避難所機能 | | | | ○ | | | | |
| | 敷地所有 | 一部借地（有償） | | | | | | | | |
| | 都市計画法規制 | 市街化調整区域 | | | | 建蔽率・容積率：40％／80％ | | | | |
| | 利用圏域 | 市全域 | | | | | | | | |
| 広域化可能性 | すでに広域化している | | | ・市民以外の利用も可能としている。 | | | | | | |
| 機能重複度 | 利用圏域に同種・類似施設がある（民間施設） | | | × | ・近隣に自治会の会館がある。（寺岡・軍道） ・市内に、学習等供用施設及びコミュニティ会館が13施設（小宮会館を含む）ある。 ・小宮ふるさと自然体験学校と隣接する。 | | | | | |
| | 利用圏域に同種・類似施設がある（国・都・市施設） | | | ○ | | | | | | |
| | 利用圏域に同種・類似施設はない | | | × | | | | | | |
| ⑦施策との関連性 | 関連施策 | 第2次総合計画第3章 第1節1「地域コミュニティの活性化」⑤各種団体の支援⑥地域コミュニティ団体の支援 第2節1「防災・消防対策の推進」①防災施設・設備等の充実 地域防災計画第1編第9章第2節「避難場所及び避難所の指定・安全化」 | | | | | | | | |
| | 説明 | 市民等が生涯にわたり、目標を持っていきいきと生活できるよう、地域コミュニティの活性化及び生涯学習の推進に向け、活動の場を提供する。 災害発生前後において、地域の身近な防災拠点として、指定緊急避難場所に指定されている。 | | | | | | | | |
| ⑧再編等の方向性及び修繕・改修等の考え方 | 【方向性】 | | | | （同時に行う対応） | | | | | |
| | 移転・規模縮小・複合化 | | | | | | | | | |
| | 【再編方針】 | | | | 【修繕・改修】 | | | | | |
| | ・小宮会館を小宮ふるさと自然体験学校に移転し、規模縮小・複合化 | | | | ・再編するまでの間、施設の老朽化や定期的な点検・診断結果に基づき、実施する。 | | | | | |
| ⑨計画実行のスケジュール | 想定実施年度 | 想定対策内容 | | | 想定実施年度 | 想定対策内容 | | | | |
| | 令和8年度以降 | ・再編等の方向性に沿った具体的手法の検討 | | | 令和8年度以降 | ・未定 （再編等の方向性に沿った具体的手法による） | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| ⑩計画実行に当たっての留意事項 | ・複合化する位置は、小宮ふるさと自然体験学校における事業規模などを考慮し、小宮ふるさと自然体験学校敷地を想定 ・複合化の手法（新建物とするかなど）を別途検討 ・乙津郵便局の取扱いとは別途検討 ・現在の小宮会館の建物については別途検討 | | | | — | | | | | |
| ⑪計画実行後の課題 | — | | | | — | | | | | |

■再編等に関する実施計画

令和7年12月

| | | | | | | |
|---------|--------------|-----------------|------|------------|---------|----------|
| 施設棟番号 | D-12 | | 所管部署 | 環境農林部 | 環境政策課 | 環境の森推進係 |
| 施設分類 | 大分類 | スポーツ・レクリエーション施設 | 中分類 | レクリエーション施設 | 小分類 | |
| 施設名称 | 小宮ふるさと自然体験学校 | | | | | |
| 所在地 | あきる野市乙津1984 | | | | 敷地面積(㎡) | 5,903.88 |
| 延床面積(㎡) | 2,114.00 | 構造 | RC造 | | 建築年度 | 昭和39 |
| | | | | | 経過年度 | 61 |

| | | | | | | |
|------------------|--|--|--|--|--|--|
| 計画期間 | 令和8（2026）年度～令和17（2035）年度 | | | | | |
| ①事業の概要 | <p>（設置根拠）</p> <ul style="list-style-type: none">・あきる野市小宮ふるさと自然体験学校の設置及び管理に関する条例 <p>（設置目的）</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちを中心に自然とのふれあいや環境学習の場を提供することにより、心豊かな人間性を育むとともに、地域の活性化を図るため。 <p>（事業内容）</p> <ul style="list-style-type: none">・自然体験に関すること。・自然環境に係る展示に関すること。・施設の貸出しに関すること。 | | | | | |
| ②事業の現状 | <p>事業開始の平成24年度から令和6年度までの平均利用者数は、年間約4,900人である。この期間中において、最多利用者数は平成27年度の6,452人で、最少利用者数は令和2年度の2,825人である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度以前の平均利用者数は年間約5,400人であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度から令和4年度までは、年間約3,700人に減少した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した令和5年度以降の平均利用者数は年間約4,500人で回復傾向となった。</p> <p>当施設は小学校施設を転用したものであり、築60年が経過しているため、各所に経年劣化による損耗が見られる。施設点検等で特に緊急性があると指摘があったものについては修繕等で対応している。</p> | | | | | |
| ③将来的な事業のあり方（方向性） | <ul style="list-style-type: none">・小宮ふるさと自然体験学校は、旧小宮小学校の閉校に伴い、地域との話し合いを踏まえ、現在の利活用に至っている。また、当該施設で行う自然体験事業は、環境基本計画に位置付け、自然体験事業を通じて、次世代を担う子どもたちの育成に取り組んでいる。・これまでの経緯を踏まえ、今後も、当該施設の立地環境を生かして事業を継続する。 | | | | | |
| ④事業の課題 | <ul style="list-style-type: none">・老朽化した施設の管理、補修 | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|--|--|------|------------------|--|---|---|-----------------|----|--|
| ⑤個別施設計画 における施設の 再編等の方向性 (令和3年6月 時点) | 再編等の方向性 | 規模縮小／規模縮小・複合化(新建物) | | | | | | | | |
| | 保全の方向性及 び実施時期の目 安 | 大規模改修 | 平成22 | 建替え 又は 長寿命化改修 | 令和12 | 長寿命化後の建替え | — | (参考)建替え時 築年数 | 66 | |
| ⑥再編モデル案 検討のための施 設特性整理 | 利用対象 | 市民一般 | | | 備考 | ・市民に限らず市外の方、団体が利用可能である。 | | | | |
| | 需要傾向 | 利用需要上昇傾向 | | | | ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から一時的に需要は減ったが、現在は増加傾向に転じている。 | | | | |
| | 規模適正度 | 余剰スペースあり | | | | ・使用率が低い教室等については、有効活用できる可能性がある。(改修等が必要となる可能性あり) | | | | |
| | 建物活用 | 多目的利用検討可能 | | | | ○ | ・環境教育や自然体験事業においては、展示室、校庭、体育館などを利用するが、利用されていない時間等を有効活用できる可能性はある。 ・設備の老朽化が進んでいる。 | | | |
| | | 複合化・集約化によるサービス水準の向上が期待される | | | | ○ | | | | |
| | | 設置目的と異なる使用状況あり | | | | × | | | | |
| | | 単独機能での建物利用が望ましい | | | | × | | | | |
| | | 賃貸借物件での運営も可能(市有物件での運営は必須ではない) | | | | × | | | | |
| | | 投票所機能 | | | | × | | | | |
| | | 避難所機能 | | | | ○ | | | | |
| | 敷地所有 | 市有地 | | | | | | | | |
| | 都市計画法規制 | 市街化調整区域 | | | | | | | | |
| | 利用圏域 | その他 | | | | ・施設の性格上、自然環境が条件となるため、市内には当該施設1か所あればよい。 | | | | |
| | 広域化可能性 | 検討不可 | | | | ・市外の利用者も受入れており、近隣自治体が共同運営するメリットはないと思われる。 | | | | |
| 機能重複度 | 利用圏域に同種・類似施設がある(民間施設) | | | × | ・自然環境、立地条件を活用した事業を実施している施設であり、周辺には類似施設はない。 | | | | | |
| | 利用圏域に同種・類似施設がある(国・都・市施設) | | | × | | | | | | |
| | 利用圏域に同種・類似施設はない | | | ○ | | | | | | |
| ⑦施策との関連性 | 関連施策 | あきる野市環境基本計画 生物多様性あきる野戦略 あきる野市生物多様性地域連携保全活動計画 | | | | | | | | |
| | 説明 | 環境教育及び自然体験における重要な役割を担っている。 | | | | | | | | |
| ⑧再編等の方向性 及び修繕・改修等の 考え方 | 【方向性】 | | | | (同時に行う対応) | | | | | |
| | 規模縮小・複合化 | | | | — | | | | | |
| | 【再編方針】 | | | | 【修繕・改修】 | | | | | |
| | ・小宮会館を小宮ふるさと自然体験学校に移転し、規模縮小・複合化する。 | | | | ・再編するまでの間、施設の老朽化や定期的な点検・診断結果に基づき、実施する。 | | | | | |
| ⑨計画実行のスケジュール | 想定実施年度 | 想定対策内容 | | | 想定実施年度 | 想定対策内容 | | | | |
| | 令和8年度以降 | ・再編等の方向性に沿った具体的手法の検討 | | | 令和8年度以降 | ・未定 (再編等の方向性に沿った具体的手法による) | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| ⑩計画実行に当た る際の留意事項 | ・複合化する位置は、小宮ふるさと自然体験学校における事業規模などを考慮し、「現小宮ふるさと自然体験学校敷地」を想定 ・複合化の手法(新建物とするかなど)は別途検討 | | | | — | | | | | |
| ⑪計画実行後の課題 | — | | | | — | | | | | |